

平成二十八年度 大学院人文科学府修士課程第2期入学試験問題

(東洋史学・外国人留学生入試)

次の各問に答えなさい。(解答は解答紙に記入)

問 I 日明朝貢貿易において、日本から附搭貨物として輸出された主要商品と、

明朝政府によるそれらの商品の収買制度について概術しなさい。

問 II 次の各語について、簡明に説明しなさい。

- ① 会同館
- ② 市舶太監
- ③ 都指揮使司
- ④ 大明宝鈔
- ⑤ 降倭
- ⑥ 宋素卿
- ⑦ 『練兵実紀』
- ⑧ 『善隣国宝記』

問Ⅲ 次の史料を現代日本語に訳しなさい（解答の字体は常用漢字でも可）。

大學士史可法「請敕印軍需疏」曰。「江北軍兵不安、洶洶告急。臣奉命督師、即當啟行。今請速頒敕印、以便行事。又各項軍器、所需不貲。臣在南都、造過紅夷・滅鹵等大炮及鳥銃・三銀鎗・腰刀等件、不下數千。皆已發之各營、現在操練。今製造無及、需用難緩、不得不於內庫所備暫借應用。伏乞聖明俯允、於兵仗局發明銅葉甲、多則一千付、少則五・六百付、於供應機房發駁回雜色緞一百匹、並內廠前買解京雜布發二・三千疋、為釘甲表裏及棉甲等用。於兵仗局戊字等庫發舊倭刀三・五千把、為馬上精兵之用。發皮團牌二千面、為守城及舡上選鋒遮洋之用。於各營取原發紅夷炮五千位・滅鹵炮五千位・原領內庫銅鍋三百口、再將戶部員外丁煜奉旨買到紅銅發一萬斤、為打造鑼鍋之用。此應用軍需、不容少缺者也。諸鎮之兵集於九江、臣既到彼、便須給發錢糧。除寄貯淮揚之銀聽臣察取、寄泊河濱之米聽臣收貯、題明應用。此外尚需二・三十萬金、攜帶前行。容臣於江上迎催解之銀題明留用、用完奏銷。此應用錢糧、不容少缺者。統祈聖裁、俞允施行」。

（李天根『燭火錄』卷三、順治元年〔崇禎十七年〕五月十五日）